

(令和3年08月16日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >

< 経済統計－基礎データ・3 (対外比較) >

今回は、経済統計－基礎データ・3です。基本・重要な統計データの内容を知ることではなく、各国の経済統計データを比較してみましょうとの趣旨。各国の経済事情、統計の作成基準などが異なるので単純に水準を比較するのは注意が必要ですが、①. 時系列の動きの違い、②. 構成する各詳細項目の動きを把握するのは有効です。

例として、日本と米国の鉱工業生産指数を上げてみました。

鉱工業生産指数の動き

	日 本		米 国	
	鉱工業生産指数	2015年=100 対前月比	鉱工業生産指数	2017年=100 対前月比
20/1	99.8	△ 1.9	101.1	▼ 0.5
20/2	99.5	▼ 0.3	101.3	△ 0.2
20/3	96.2	▼ 3.3	97.4	▼ 3.8
20/4	86.3	▼ 9.9	84.2	▼ 13.6
20/5	77.2	▼ 9.1	85.8	△ 1.7
20/6	81.0	△ 3.8	91.2	△ 5.4
20/7	86.6	△ 5.6	94.9	△ 3.7
20/8	88.3	△ 1.7	95.9	△ 1.0
20/9	91.6	△ 3.3	95.6	▼ 0.3
20/10	93.5	△ 1.9	96.6	△ 1.0
20/11	94.2	△ 0.7	97.2	△ 0.6
20/12	94.0	▼ 0.2	98.3	△ 1.1
21/1	96.9	△ 2.9	99.4	△ 1.1
21/2	95.6	▼ 1.3	96.4	▼ 3.0
21/3	97.2	△ 1.6	98.9	△ 2.5
21/4	100.0	△ 2.8	99.0	△ 0.1
21/5	93.5	▼ 6.5	99.7	△ 0.7
21/6	99.3	△ 5.8	100.1	△ 0.4

日本の鉱工業生産指数は確定値、米国は2021年5月の改定値を使用。

新型コロナの感染拡大の影響を受けて、日本・米国ともに鉱工業生産は落ち込みましたが、米国は短期間のうちに立ち直り、その後着々と回復に向かっていること、日本は回復に時間がかかり、21年5月の落ち込みなど、まだ安定していないことなどが分かります。

もう一段詳細にみれば、米国の6月の総合は0.4%のプラスでも製造業は▲0.1%のマイナス。半導体不足の影響を受けて自動車が落ち込んでいることが解ります。

(了)

